

令和3年度第6回 神戸市学校給食委員会 議事要旨

- 1 開催日時 令和3年8月18日（水）15時00分～16時15分
- 2 開催場所 神戸市教育委員会事務局 教育委員会会議室
- 3 出席委員 西村委員長、植村委員、小林委員、熊谷委員、富士委員、山崎委員、田中委員、本條委員、竹森委員、古田委員
- 4 議 事
・「中学校給食の全員喫食制への移行に向けて〔報告書〕」について

【冒 頭】

○浜西健康教育課長

- ・委員の皆様には中学校給食の全員喫食制における最適な実施方式の検討をはじめ、給食内容、給食時間など幅広い論点について様々な観点からご議論いただいた。本市の中学校給食が新たなステージに向かうための道筋を示していただいたと考えている。本日は前回までの議論を踏まえ、報告書案を作成しているのので、改めて確認いただきたい。

●委員長

- ・本日で中学校給食の議論は一旦最後にしたい。もちろん必要であれば議論を続けるべきであるが、1日でも早く全員喫食に向けて、子どもたちに安全安心で温かくておいしい給食を提供したいというのが基本的な考え方である。
- ・新型コロナウイルスの影響で緊急事態宣言が発令されるなど厳しい状況の中、3月から議論を続けてきた。各委員には毎回会議に出席いただき、様々なご意見をいただいた。改めて感謝申し上げます。

【議事要旨】

- ◇ 「中学校給食の全員喫食制への移行に向けて〔報告書〕」について
(事務局より資料1について説明)

●委員長

- ・会議の中では中長期的な生徒数の減少や学校の統廃合などの可能性についても議論があったと思うが、そういった趣旨の記述について確認したい。
- ・また、民間デリバリー方式と給食センター方式の2本柱とし、親子調理方式については補完的に導入、自校調理方式については検討対象から外すこととなっている。ただ、逆に言えば、82校の中学校に対して、自校調理方式以外の方法で対応可能であるという担保がなければ説明が難しいと思う。この点は大丈夫なのか事務局の見解を伺いたい。

○事務局

- ・まず1点目については、11ページに「今後の人口減少の推計など、中長期的な観点も踏まえて検討」と記載している。

●委員長

- ・人口減少というのは、生徒数の減少を指しているのか。

○事務局

- ・そうである。

●委員長

- ・人口減少という一般的な話ではなく、少子化に伴って子どもの数が減少していくということを明記した方が良いのではないか。

○事務局

- ・修正させていただく。2点目のご質問については、民間デリバリー方式での提供可能エリア、給食センターでの提供可能エリアをうまく区分し、また親子調理方式の導入も検討することで、全82校への給食の提供は可能であると考えている。

●委員長

- ・十分カバーができるということが分かった。実務的には土地の問題や調整もあるし、地域の理解も必要など、簡単に進まないこともあると思うが、現時点で対応できる見通しがあるのか改めて確認をしたいという趣旨だった。

○事務局

- ・具体的な計画はこれから進めていく必要があるが、民間事業者へのサウンディング調査の結果も踏まえながら、給食センターについては候補用地における提供可能食数や配送可能エリア等も確認をしたうえで、対応可能であると考えている。

●委員

- ・民間デリバリー方式はどうしてもランチボックスのイメージをもってしまう。民間デリバリー方式でも温かい食缶の給食が提供されるということが分かる文言が入っていたか伺いたい。

○事務局

- ・前回もご意見をいただいたように、誤解を与える可能性があったため、まずは3ページにおいて、提供方法としてランチボックス方式と食缶方式の2種類があることを明記したうえで、5ページにおいて、全てのおかずを温かく提供できる食缶方式を前提としていることが分かるように記載している。誤解を与えないよう、「(食缶)」という記載もあえて削除した。

●委員

- ・学校現場はいつからこういった形で全員喫食制がスタートするのかを気にすると思う。

○事務局

- ・全員喫食制のスタートについては、できるだけ全市で統一することが望ましいという議論だったと思う。また、先行実施も検討するという表現としている。

●委員長

- ・全員喫食制への移行をどういう形で進めていくのかについては、現場の先生方が困られないような説明をきちっとすべきだと思う。

●委員

- ・中学校は3年間しかない。お金も必要なことではあるが、スムーズに早期の移行が進むことを期待したい。また、「おわりに」のページの「以上」は不要ではないか。

○事務局

- ・修正する。

●委員

- ・一番のネックは給食時間だと思う。教えるべき授業数や時間が決まっており、放課後の部活動もある。働き方改革でできるだけ定時には部活動も終わろうと中学校も変わりつつある中で、温かい給食となれば準備時間を確保する必要がでてくる。
- ・校時は校長判断だと思うので、各学校の事情で校長判断にしてもらえれば、各校が柔軟に対応できるように思う。給食時間は中学生にとって非常に大事な時間であり、またその後の休み時

間も非常に大事である。そのあたりを確保しながら給食を運用していく必要があり、難しい課題であると思っている。

●委員長

- ・全ての学校が一律ではなく、弾力性をもった授業時間や給食時間を考えていただくようなことも必要かもしれない。学校現場と密に連絡をとっていただき、対応を検討いただくことが必要だと思う。

●委員

- ・報告書は非常に分かりやすくまとめられている。これまで丁寧に取り組んできた経過が分かりやすい。今後の課題としては、校長の立場とすれば、実際にいつから全員喫食制に移行するのか、できるだけ早い段階で見通しを示していただくことが大事ではないかと思う。

●委員長

- ・報道を通じて間接的に学校現場に情報が流れるのではなく、事前に情報提供を行うなど、教育委員会と学校現場が密にコンタクトを取っていただく方が良いし、進めやすいと思う。

●委員

- ・今後の話だが、親としては申込方法や休みの日の対応など、具体的な運用面が気になる。利用しやすい形になれば良いと思う。給食センターについては、新たに建設したとしても少子化に伴って需要が減っていくことも考えられる。中長期的な目線で、防災や食育の観点でも有効活用できないかなど、子どもたちのみならず、市民への還元という観点でも検討いただきたい。

●委員長

- ・給食センターは地域とつながり、災害時の拠点、食育、高齢者や障がい者、支援すべき方々へのプラットホームになるような、地域に愛される施設となるよう検討いただきたい。

●委員

- ・親子調理方式のモデル実施は、実施可能な学校を選定されたのだと考えている。親子調理方式が一番実現が早いと思うが、仮に先行実施を行うとなった場合、学校側から手を上げるような形になるのか伺いたい。先行実施は良い面もあれば、一方で不公平感も出てくると思うが、認知度の向上にもつながるので、できれば積極的に進めていただきたい。

○事務局

- ・まず親子調理方式のモデル実施については、必ずしも実施が可能な学校を選定したわけではなく、小中学校が同一敷地や隣接しているといった立地条件が整っている学校の中から選定した。モデル実施の対象校でも給食室の調理能力では3学年を一斉に実施するのは難しかったので、学年ごとに実施をした。先行実施については、学校側から手を上げる形ではなく、調理能力の余力を十分に調査したうえで対象校を決めるものだと考えている。

●委員長

- ・公平性も担保しながら検討いただきたい。

●委員

- ・全員喫食制や生徒・保護者の願いである温かくておいしい給食をできるだけ早く実現するためには、できれば給食センター方式が良いと思うが、それだけでは難しいので、民間デリバリー方式も取り入れ、親子調理方式も検討することとしており、この方針が非常に現実的であるし、これしかないと思っている。ただ、自校調理方式について「基本的には検討対象から除外すべき」と切り捨てるのではなく、将来的にどうなるのか分からないことも考えて、表現をもう少し柔らかくできないか。例えば、「全員喫食並びに生徒や保護者の要望の早期実現を図るためには、検討対象から除外せざるを得ない」など柔らかい表現の方が良いのではないか。

●委員長

- ・自校調理方式について全否定ではないということであり、その良さも分かっているが、全員に温かく、安全に、早くというような前提条件があるので、その条件を満たしていくことが求められているということである。表現については修正を検討いただきたい。

○事務局

- ・自校調理方式そのものを否定するつもりはなく、それぞれの方式にメリット・デメリットがあるという議論もさせていただいた。表現についてはご指摘を踏まえて考えたい。

●委員

- ・感想だが、今後、中学校給食の全員喫食というのが神戸市の魅力化となって、今以上に中学校に安心して入学できるようになれば良いという風を感じている。私自身は中学校でも食育がもっともっと進んでいけば良いという意見を持っているが、現場の先生方のご意見を聞いていると働き方改革や学習内容との兼ね合いなどもあり、現場としてはやりたくても中々難しいという側面をもっていることをよく理解できた。
- ・また、全員喫食となれば、全員で同じものを食べるので、皆で一緒に準備をする。さらに、家では食べないものを食べられる機会になるということは、やはり“食”ということが中学生の話題として、今よりは増えるのではないかと感じている。誰かに教えてもらう食育ではないが、自分たちで学んでいく一つの手立てとして、食育の機会が増えるのではないかと思う。このコロナ禍において、テイクアウトというのがかなり身近に浸透してきたと感じているが、テイクアウトにしても、外食にしても、自分で選んで食べるということになる。どういったものがバランスが良いのかを知っておくと、こういうのばかり食べてはいけないとか、そういうことを自分で判断できると思う。今回、全員喫食を進めていくことで、食の自己管理能力を伸ばす機会になると思うので、早期に実現できるように願っている。

●委員

- ・中学校給食の今後の方向性を検討する中で、保護者の期待や関心が非常に大きいということを変更して実感している。今後、具体的な計画を早く示していく必要があると思う。また、保護者や生徒、現場の先生方などに分かりやすく周知していくことが大事だと思う。

●委員長

- ・学校給食は未来を担う子供たちの健康と成長を支えるものであり、食育にも関わってくる。また、何よりおいしくて楽しい時間であることが重要である。本日いただいたご意見を踏まえて報告書を修正させていただく。明日にでも時間を作り、私から教育長に報告書をお渡ししたい。
- ・報告書の方針については、状況に応じて勇気をもって修正することも時には必要だと思う。このタイミングではモアベストということで、委員全員の思いで報告書を作ったと思うので、事務局はそれを受け止めていただいて、1日でも早く実行に移していただきたいと思う。

○事務局

- ・本日も貴重なご意見をいただいた。事務局としても、よりよい中学校給食となるよう全力で取り組んでまいりたい。委員の皆様には引き続きご指導いただきたい。

●委員長

- ・委員の皆様のご協力で良い報告書ができたと思う。感謝申し上げたい。事務局にはぜひ頑張って取り組みを進めていただきたい。それではこれで会議を終了する。